



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社クラシコム

5

— 全員 18 時退社で 160% 成長を続けるベンチャー企業 —

株式会社クラシコム（以下クラシコム社）は、北欧雑貨をはじめ、日常使いの道具などを販売する EC サイト「北欧、暮らしの道具店」（<https://hokuohkurashi.com/>）を運営する 2006 年創業の企業である。女性をターゲットとする同社の運営するサイトの特徴は、読みもののコンテンツが非常に充実していること。顧客は買い物をするというより、空き時間を潰すための雑誌を読む感覚でサイトを訪れ、ついでに商品を購入していく。クラシコム社が自らを「カートボタンのついたメディア」として呼ぶ理由でもある。2 種類の小雑誌を隔月で発行しており、商品購入の際には無料で同梱されてくる。2015 年からは企業とタイアップした広告記事「Brand Note」も増えてきているが、社員が実際に自宅で使ったり、商品開発や企業の背景に重きをおいたり丁寧につくられた広告記事は、普段のコンテンツ以上に読了率が高いと言う。

10

15

なぜ残業ゼロを始めたのか

クラシコム社は、代表取締役の青木耕平氏が実妹の佐藤友子氏（現取締役）と共に立ち上げた会社である。経営は青木氏が、事業はインテリアコーディネーターの佐藤氏が担うこととなったが、その当時青木氏は子育て中、佐藤氏は結婚したばかりでそのうち子育てと仕事を両立させながら働く可能性があることが分かっていた。そのため、子育て中でも働きやすい職場にするための組織や仕組みを作ること創業時から意識していた。また人口減で若い人材の確保が難しくなる将来を予想して、大手企業のように高い給料や安定性を提供できないクラシコム社が優秀な人材を採用するためには、プライベートのために仕事をセーブしたい人が働ける職場、具体的には「18 時に帰れる」というメリットを提供すればいいのではないかと考えた。実際、現在の毎月の平均残業時間は 20 分以下となっている。

20

25

本ケースは、国保祥子がクラス討議の資料として用いるために、公表資料と青木耕平氏へのインタビュー（2017 年 6 月実施）に基づいて作成した（2018 年 2 月）。経営管理の良否あるいは関係者の判断の適否を示唆するものではない。本ケースの作成にあたっては、無断転載はご遠慮下さい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 国保祥子（2018 年 5 月作成）